
最後の一葉

綾小路 アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の一片

【Nコード】

N16230

【作者名】

綾小路 アキ

【あらすじ】

短編の巨匠、O・ヘンリーの珠玉の名作を悪戯しました。

先生すみませんすみませんすみません。

「助かる見込みは十に一つだね。」

その見込みも、あの娘が生きたいと思う気持ちにかかっている。

きみの友達は、もう治らないと決めているんだよ。」

医者が帰ると、スーは仕事部屋へ入って泣きました。

若い絵かきのスーとジョンシーが、ワシントン・スクウェアの一角の古いアパートに

アトリエをかまえたのは五月のことでした。

その年、ニューヨークでは肺炎が猛威をふるい、つぎつぎと犠牲者を増していきました。

そして、魔の手は、ジョンシーをも捕らえたのでした。

「12……11……10……」

スーがベッドに走りよると、ジョンシーは大きく目を開き窓の外を眺めて何かを数えています。

窓から見えるものといえば、何もなし中庭と、鳶のからまる向かいの建物の壁だけです。

「ねえ、どうしたのよ。」

「6……三日前にはまだ百くらいあったのよ。」

あら、また落ちた。もう残っているのは5枚だけだわ。」

スーの胸に不安がこみあげました。

「なによ。どういこと？」

「葉っぱ。鳶の葉よ。最後の1枚が落ちると同時に、私も死ぬんだわ。」

私には……わかっているのよ。」

スーは急いで同じアパートに住む絵描きのベールマンさんのところに相談に行きました。

「蔦の葉が落ちたら自分も死ぬだなんて！よし、わしが傑作を描いてやろう！」 ベールマンさんが言いました。

それからずいぶん経ちました。

「ああ・・・あの最後の1枚はまだ落ちないのね。

あれが落ちるまで私は本当に死ねないんだわ……」

ことし154歳になるジョンシーは力なくつぶやきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1623o/>

最後の一葉

2010年10月10日01時17分発行